

JSA「夏の学校」2013 in 宮城

「震災から2年、被災地の〈いま〉を学び、〈これから〉を考える」

主催：日本科学者会議(JSA)夏の学校 2013 実行委員会

—2nd Circular—

1. 校長挨拶

今年も夏の学校の季節が近づいてきました。「夏の学校」は、全国から院生・若手研究者が集い、社会問題についてフィールドワークや当事者からの聞き取り、また様々な分野の専門家との議論により理解を深めるとともに、科学者の社会的な役割と責任を考える企画です。参加者による研究分野を超えた交流から刺激を受け、蝸壺的な「専門」家に陥らず、なおかつ現代の最新の状況を学ぶ機会であると考えています。

今年の夏の学校の開催地は宮城県です。周知の通り、震災から2年以上が経つ現在においても、被災地の生活と生業の再建は進んでいません。今年は夏の学校のテーマを「震災から2年、被災地の〈いま〉を学び、〈これから〉を考える」としました。まずは、被災地の現状を知る事なしには、被災地のこれからを考えることはできません。津波被害により、住宅が全て流され平野になった地帯、校舎全体が被災した小学校、横倒しとなった建物、中央部分が丸ごと流された鉄筋コンクリート橋など、現在でも至るところに被災の痕跡が見てとれます。そして、それは同時に依然として復興・復旧が進んでいない事を表しています。夏の学校では、こうした現状を直接に現地で見られることを、まず第一の目的とします。そして、第二に、被災され今も仮設住宅で住まわれている方々や、また今まさに自らの生業を再建しようとしている方々に、被災地での暮らしについて、その被災された当時のお話と現在の取り組みについて伺おうと考えています。

夏の学校 2013 年は、現在まさに様々な問題が起こっているながら、現地に訪れなければわからない被災地の現状を学び、参加者と被災地の方々、そして参加者同士が議論・交流する場となります。そのため、丸一日を使い津波被害の最も大きかった地域のひとつである石巻市を訪問し、ご自身も被災された方を講師に現地を案内していただきます。また、現在、仮設住宅に住まわれている方々への訪問、生業の再建に向け活発な取り組みをされている漁協の方々にもお話を伺うことを検討しています。

震災からすでに2年以上が経ついま、直接にその現状を学び・考える第一歩として、参加した院生・若手研究者・若手 JSA 会員それぞれが東日本大震災の問題を今後考える一助となるよう企画しています。また、全国から参加者が集う貴重な交流の場として、実り多いものになればと考えます。全国の皆様のご参加を心からお待ちしております！

「夏の学校 2013in 宮城」校長 鈴木 力

2. 企画概要

◆開催日時：2013年9月20日（金）～23日（月） ※3泊4日

◆集合時間場所：15:20 仙台駅集合

◆宿泊場所：エスポール宮城（「東仙台駅」より徒歩12分）

※宿舎は基本的には集団部屋ですが、個室利用希望者は近隣宿舎への予約対応可能です。その場合の宿泊費は他の参加者と同額になります。

◆参加費：17000円＋交通費

※院生の交通費はカンパによって出ることがあります。詳しくは日本科学者会議の各支部か、夏の学校実行委員会にお問い合わせください。支部からの交通費補助が実費に足りない場合も、夏の学校実行委員会にご相談ください。

※部分参加の場合は、以下の各項目の合計額となります。

初日宿泊費（朝夕食付）4000円、二日目宿泊費（朝夕食付）4000円、三日目宿泊費 23日朝食のみ付で3600円、21日と22日の昼食各500円、22日夜の懇親会費3500円、その他懇親費1500円

3. タイムスケジュール

	20日	21日	22日	23日
午前		現地FW 石巻・女川・牡鹿半島	仙台市内の仮設住宅、農地見学	研究・活動交流 12時宿舎解散 ※12時30分に宿舎発 仙台駅バスが発券予定
午後	15時仙台駅集合 自己紹介 研究紹介 事前学習		シンポジウム	
夜	交流会	交流会	交流会	

4. 企画要旨

※現時点での予定です。フィールドワークの場所・時間等の詳細は変更の可能性があることをあらかじめご了承ください。

9月20日（金）

全国の大学院生との交流は夏の学校ならでは。

翌日からのフィールドワークの事前学習として、東日本大震災の被害の概要に関する学習会も予定しています。

- ・自己紹介、研究交流
- ・震災状況についての学習会

(Time Schedule)

- 15:20 JR 仙台駅に集合
- 15:30 仙台駅発エスポールみやぎ行きバス出発
- 15:45 エスポールみやぎに到着
- 16:00 開校・自己紹介
- 16:30 震災状況についての学習会
- 18:00 夕食
- 20:00 宿舎交流

9月21日（土）

津波被害とその後の復興の実情を伺い知ることの出来る箇所をまわるフィールドワークを開催します。津波被害の大きさとその後の状況について知るために、石巻市の方に案内をしてもらいながら、東松島市、石巻市、女川町～牡鹿半島等の沿岸地域をまわります。

(Time Schedule)

- 8:00 朝食
- 9:00 バスで宿舎出発
- 10:00 東松島市到着
- 10:15～10:35 東松島市大曲湾見学
(移動)
- 10:55～11:55 石巻市日和山の見学
- 12:30 昼食休憩
- 13:00 牡鹿半島方面に移動 ※
牡鹿半島の鮎川で漁師の方に被災実態や生業のヒアリング+漁港見学
大原・大谷川・谷川・女川等、牡鹿半島の津波被害の大きかった地域を見学
- 18:30 宿舎到着
- 19:30 夕食、その後、宿舎交流

※午後の牡鹿半島の行動スケジュールは訪問順序の変更等あります。

9月22日(日)

被災地の<いま>と<これから>について考えるにあたり、2日目に引き続き3日目は仙台市内で被災された農家の方の現在を見ます。午後にはこれまでの被災地の状況を各人が持った上で、被災地の復興について、研究者や、宮城県内で仕事をしている現地の方をお呼びし、シンポジウムを行います。

(Time Schedule)

- 8:00 朝食
- 9:30 エスポール宮城 出発～仮設住宅へ移動
- 10:00 仮設住宅 到着 お話聞き取り
- 10:45 修復家屋・農地へ移動
- 11:00 家屋・農地の修復について説明聞き取り
- 11:30 エスポール宮城(宿舎)に移動
- 12:10 昼食休憩
- 13:15 シンポジウム会場集合
- 13:30 シンポジウム開始
- 17:00 シンポジウム終了
- 17:30 懇親会

9月23日(月)

院生に悩みはつきもの。一人で悩むより、みんなで悩めば気持ちが晴れるかも。この際何でも先輩に聞いちゃいましょう。

- ・大学院生の研究生活体験記——JSA活動も含めた社会活動も合わせて

(Time Schedule)

- 8:00 朝食
- 9:00 院生生活交流
- 12:00 閉校、解散
- (12:30 エスポールみやぎ発仙台駅行きバス出発)

5. 3日目(22日)シンポジウム詳細

◆シンポジウムテーマ：

今回の夏の学校のコンセプトの一つ「住民の生活と生業から、地域・地方の経済の自立的な復興のあり方、そして現在宮城県で進められている大企業主体の復興政策のあり方を考える」

◆シンポジスト：

- (1) 網島不二雄氏（東日本大震災復興・復興支援みやぎ県民センター代表世話人）

復興の現状・国の復興政策の問題点について発言依頼。国政・県政レベルの復興をめぐる被災地との対立などの観点からお話いただく。

- (2) 片山知史氏（東北大学教授）

水産物の放射能汚染の問題や、漁協の関係で資源管理の問題をお話いただく。3・11以後、水産物資源にどのような影響があったのか、また従来水産物資源管理を行う上で漁協が果たしてきた役割と水産特区等の企業管理導入との対比で漁協の重要性、そして漁業復興の展望までお話しいただきたい。

- (3) 芳賀哲也氏（気仙沼信用金庫常務理事）

長年、気仙沼市を中心とする地域で中小企業への融資を行い地域に密着されてこられた経験から、宮城沿岸部の中小企業・地域経済の特性、3・11後の被災地の中小企業の被害状況と気仙沼信用金庫の取り組み、今後の被災地の復興にあたり、中小企業の再生の意味と、それを支援する信用金庫等が果たす役割、という内容の報告をいただく。

- (4) 自治体職員の方（打診中）

自治体の復興に関わる行政の全体像について。被災直後の自治体職員による取り組み、避難所生活時期、仮設生活時期、等々3・11以後の時期ごとの自治体の課題とそれに対する取り組み。加えて、復興予算の使途問題、特区構想の基本的性格、3・11以前より行われていた自治体の統廃合の中での自治体の置かれている現状と問題点。今後の復興に向けた展望について依頼中。

- (5) 被災地の女性支援者（打診中）

被災者の女性のニーズとはどういうもので、どのような支援を行っているか、具体的な事例のご紹介（震災直後と現在）。また、被災者の女性がニーズを言い出しにくい状況が生まれていれば、そういった状況の背景について、被災地に固有の要因と、社会全体の要因とについて。そして、今後の女性支援政策へのご提案を発表いただきたく依頼中。

6. お問い合わせ先

日本科学者会議（JSA）全国事務局

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15 茶州ビル 9F

Tel : 03-3812-1472 Fax : 03-3813-2363

<http://www.jsa.gr.jp/>

Mail : jsa.summer.school.2013あっとまーく@gmail.com （JSA「夏の学校」2013 実行委員会）

◆第二次申し込み締切：8月20日中（メール、FAX、お電話でお申し込みください）

◆注意事項＊必ずお読み下さい

【参加確認の連絡／紹介文執筆のお願い】

参加を申し込まれた方へは、事務局から確認のご連絡をメールにて差し上げます。また、参加者には自己紹介／研究紹介の文章を執筆していただく予定です。異分野の研究者間の交流を促すため、当日配布する「しおり」に全参加者の事項紹介を掲載します。参加者には別途原稿依頼のご連絡をいたしますので、ご協力ください。

【学部生やシニア会員の方へ】

院生・若手研究者の交流の場ですので、学部生の方の参加については、学習やフィールドワークは公開、その他は要相談とさせていただきます。シニアの方のご参加は、申し訳ありませんがご遠慮下さい。

【セクシュアルハラスメント及びその他迷惑行為について】

JSA「夏の学校」とは、全国のJSA会員を中心とする院生・若手研究者が集い、日中は学習会やフィールドワーク、夜はお互いの研究紹介や懇親会を通して参加者間の交流を深める企画です。JSAならではの学問分野を超えた研究交流を行うなかで、例年院生・若手研究者が悩みを出し合ったり助言をしあったりするなどして、研究者として成長する貴重な機会となっています。このような機会を無駄にしないために、実行委員会を中心とした参加者全員が、夏の学校の環境を整えていくことが重要であると考えます。その際に、セクシュアルハラスメント及びその他迷惑行為全般は絶対に許されるものではありません。

セクシュアルハラスメントは、相手が不快に感じる性的な言動であり、性的な欲求や関心に基づく言動だけでなく性的な差別意識や優越意識に基づく言動も含まれます。望みもしない加害者の言動は被害者を傷つけるのみならず、被害者を取り巻く環境も大いに悪化させます。このようにしてセクシュアルハラスメントの被害に遭われた方は、PTSD（心的外傷後ストレス障害）、うつ、アルコールや薬物への依存、摂食障害、自傷行為等に長期間苦しめられる場合があります。

以上のようにセクシュアルハラスメントは個人の人格的尊厳を傷つけ、人権を侵害する行為です。同時に、夏の学校という貴重な学習と交流の機会を損なう行為でもあります。夏の学校実行委員一同は、セクシュアルハラスメントに対し、断固たる態度でこれを排除し、防止することをここに宣言します。セクシュアルハラスメントが生じないように、参加者への呼びかけを徹底し、とりわけ懇親会の場においては節度ある飲酒を奨励し、参加者全員にとって心地よい交流ができるよう努めます。また、宿泊部屋や移動中のバスの車内といった、実行委員の目の届かなくなりがちな場所においてもセクシュアルハラスメントが生じないように、十分な配慮をします。万が一セクシュアルハラスメントが生じてしまった場合には、実行委員会を窓口として東京支部、全国事務局と共に迅速に対応に当たります。その際には被害に遭われたの方のプライバシーを厳守し、加害者からの報復行為や相談担当者による二次被害が生じないように努め、被害に遭われた方が納得することのできる解決について一緒に考えます。以上のような対応は、セクシュアルハラスメントに限らずその他迷惑行為が生じた場合においても同様です。夏の学校に関する相談や苦情等ありましたら、実行委員までご連絡下さい。

2013年8月2日

夏の学校実行委員一同